

ニュース

玉川大学が文部科学省 21 世紀 COE プログラムに採択

文部科学省が「世界的研究教育拠点形成のための重点的支援」として平成 14 年度から実施する 21 世紀 COE (Center of Excellence: 卓越した拠点) プログラムの学際・複合・新領域分野で、玉川大学の「全人的人間科学プログラム」(研究リーダー: 学術研究所塚田稔教授) が採択された。全人的人間科学プログラムは、玉川学園が求めてきた全人教育と、21 世紀の研究課題である脳の科学と遺伝子研究を融合させ、人間を総合的に科学する研究である。基盤研究の 1 分野として、佐々木正己教授を中心に「ミツバチの記憶・学習と神経系での遺伝子発現」に関する研究が進められることになった。

第 6 回アピセラピー学術講演会

プロポリス研究者協会 (PRA, 松香光夫代表) 主催の標記の講演会がアルカディア市ヶ谷 (私学会館) 鳳凰の間を会場に、2002 年 11 月 2 日に開催された。帯津良一 (帯津三敬病院) 「ホリスティック医療におけるプロポリスの位置づけ」、陳 黎紅 (中国農業科学院蜜蜂研究所) 「中国のプロポリス研究と開発について」、川村賢司 (㈱東京科学技術研究所) 「中国浙江省産プロポリスの成分研究」、堀内 勲 (㈱応微研) 「中国プロポリスの成分分析結果と特性」、Yong K. Park (ブラジル・カンピナス州立大学) 「南米産プロポリスの化学的特性と生理活性の比較およびプロポリスの起源植物」の講演が行われた。

参加者は約 60 名であった。

米国で、かねてからのスズメバチの 番組が放映

米国の「ナショナル ジェオグラフィック」自然史部門のテレビ番組制作部、ジェフ・モラレス氏をプロデューサーとする撮影チームは、日本のスズメバチに関する番組制作のために



2000 年 9 月, 2001 年 5, 7, 9, 10 月, 2002 年 5 月の 6 度にわたって来日。小野正人助教授の協力で、オオスズメバチの生態についての撮影が行われた。このほど、2002 年 10 月 27 日に 50 分番組、「地獄のスズメバチ」のタイトルで放映された。巣の発育していく様子、高速度カメラを用いた特殊撮影、ハチクマのスズメバチ狩りなど決定的なシーンの連続で、番組に登場する小野助教授のもとには、放映を見たミツバチ関係者などから、感想や質問が届いている。日本での放映は、今のところ未定である。

編集後記 札幌での国際社会性昆虫学会の折にお願いしたティンゲック、ケーニガー博士のボルネオでのミツバチ研究のレビューを掲載することができた。私は 1992 年と 2000 年にテノムを訪問したが、日本では見ることができないミツバチにたいへん感動した。最初の訪問時に撮影したサバミツバチを表紙の写真に使用した。ハチミツの国際規格の修正については、22 巻 4 号 (鈴木峰夫) に掲載したが、重要な内容である日本でのハチミツ類の表示に関する改正について岡元氏より解説いただいた。ハチミツに関連した記事として、モラン教授のハチミツによる治療効果を含む様々な生理活性は、医療に用いるハチミツ利用として注目される。ナスの花粉媒介にミツバチはほとんど使われていないのが現状であるが、森田氏による高知県での利用状況の報告は、ミツバチによる新たな利用作物の展開として今後期待される。(忠)